

『折り紙で遊ぼう テントウムシ製作』

育てたい力

- ・自分なりに試したり、繰り返したり、友達の刺激を受けてやってみたりすることを楽しむ力。

経験させたい内容

- ・折紙で折ったテントウムシに、●▲■の形を組み合わせ、模様を作ることを楽しむ。

5歳児5月 事例

〔クラスの実態〕

男児13名、女児16名、計29名 製作に興味をもって取り組む幼児は多いが、イメージしたものを形にしていく際に、思い通りに進まないと「できない」と言って作ることを諦めてしまったり、作るものの形がワンパターン化して遊びが広がらなかったりしている。

〔活動の流れ〕

折紙で折ったテントウムシに、自分なりに模様を考えて、丸、花やハートなど思い付いた形を友達と言い合い、思い描いた形を紙に描き、はさみで切り抜き、糊で貼り付ける。

〔指導や環境の工夫〕

- ・イメージを出していることを認めたり、受け止めたりする。イメージが実現できない時には、一緒に考えたり、材料を用意したりして援助する。
- ・友達からの影響を受けられるように、互いの動きが意識できるように、同じ机で作業するメンバー・友達関係に配慮したり、出来上がった作品が見合えるように掲示方法を工夫したりする。

〔エピソード〕『●▲■を組み合わせ、模様を作ろう』

【記録前の様子】 自分なりにイメージした形を描いてはさみで切り抜き、いろいろな形の模様を作ってテントウムシに貼ることを楽しむ姿が見られる中で、どんな形の模様にするか考えられなかったり、自分のイメージした通りの形が描けずに「失敗した。」「間違えた。」と教員に訴えてきたりする幼児が数名いた。

『●▲■を組み合わせ、模様を作ろう』 T児は、K児が星型に切り抜いた形を見て、「星の形を作りたい。だけど星が描けない。」と教員に言いに来る。

向きを変えて組み合わせることで星ができることをやって見せる。早速、T児は興味をもち、自分でも▲を描いて星型を作り始める。だが、三角の山の傾斜がなだらかだったため、T児がイメージした▲とは異なり「こういう星じゃなくてもっと尖っている星を作りたい。」と言ってきた。そこで、教員は、二等辺三角形の形を描いて見せ、T児が描いた三角形と重ねて比較して見せ、どのように▲を描いたらいいか感覚がつかめるように援助していった。その結果、T児は▲の感覚をつかみ、星型作りを繰り返し行うようになった。

T児の姿を見て、どんな形にしたらいいか決められずにいた他児もまねをして取り組み始めたので、教員は、●や■など型紙の形のパターンを増やし、●▲■の形を組み合わせいろいろな模様を作ってみせた。すると、教員の作った図形をまねしながら自分で形を描いて切り、図形を組み合わせ模様を作ることを楽しみ出した。

【その後】「描けない」と言うことが多かった幼児も●▲■を使うことで、形を描いたり切ったりすることへの抵抗感が少なくなり、「こんなのできた」と作ることを楽しむようになった。さらに、●▲■の形を様々に組み合わせることで、車、家、動物などに見立てたり、思いがけない形ができてしまうと、教員や友達に「こんなのできたよ。」と形を描いて切って作ることを楽しむようになり、模様のバリエーションが広がっていった。



予想される活動例

- ・絵画製作
- ・ごっこ遊び

〔小学校への学び〕

- ・自分なりにイメージしたことを進んで表したり見たりする態度を育てると共に、作り出す喜びを味わう基盤となっていく。また、友達同士、やり方を伝え合ったり、影響を受け合ったりしながら表現の幅を広げていく力につながっていく。